

興雲閣保存修理工事について

■興雲閣の歴史■

興雲閣は、松江市が松江市工芸品陳列所として建てた建物です。明治35年(1902)12月に着工し、翌36年(1903)9月に完成しました。当初、明治天皇の行在所に使用する目的でつくられたため、装飾・彫刻を多く用いた華麗な仕上げとなっています。結果的には天皇の巡幸は実現しませんでした。明治40年(1907)、皇太子嘉仁親王(のちの大正天皇)の山陰道行啓にあたって、同年5月22日から25日まで御旅館となり、迎賓館としての役割を果たしました。

その後、明治45年(1912)に正面の階段を奥に移動するなどの改修が行われ、松江市の公的な歓迎所として、また、各種の展覧会場、会合に使用されました。昭和に入り戦時色が濃くなると松江地方海軍人事務部庁舎、大日本防空協会島根県支部庁舎、終戦後の混乱で島根県庁が焼けた後は県庁仮分室、松江市教育委員会事務局庁舎となり、昭和44年(1969)には松江市内にある数少ない明治建築の一つとして島根県指定有形文化財に指定されました。昭和48年(1973)から「松江郷土館」として活用してきましたが、平成23年(2011)3月に閉館し、現在に至っています。

■工事の概要■

松江市では、平成20年度以降、外部委員会、アンケート調査、パブリックコメント等の意見をもとに今後の保存と活用について検討し、階段室を移設して現在の形態となった明治45年に復原するとともに、新たな活用のために必要な整備を行うことを決めました。

城山公園内の市民の憩いの場として、魅力ある観光スポットとして広く親しまれるために、また、保存と活用を両立させることにより文化財としての価値をより高めるために、平成25年度から平成27年度にかけて保存修理工事を実施しています。工事期間中は仮囲いや足場設置等、市民や観光客の皆さまにご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

【期間】

平成25年11月から平成27年9月(予定)

【工事の内容】

・保存修理工事

明治45年当時に復旧整備するため、半解体修理を行います。解体を行いながら建物の痕跡や仕様の調査を行い、調査結果にもとづいて修理方針を確定したうえで組み立てていきます。

・耐震補強工事

保存修理後に内部を公開・活用するために鉄骨を使った耐震補強を行います。補強にあたっては文化財としての価値、特に外観を損ねない工法・仕様を採用します。

・活用関連工事

便所、飲食スペース等、活用のための設備を設置する予定です。

【財源】

社会資本整備総合交付金、島根県文化財保存事業費補助金、市債、一般財源

■興雲閣の写真・資料・設計者に関する情報を探しています■

興雲閣の歴史について調査しています。特に、大正14年以前の興雲閣について、写真・絵ハガキ・設計者に関する情報・関わった方の関係資料等ありましたらまちづくり文化財課にご連絡をお願いします。

松江市歴史まちづくり部 まちづくり文化財課 文化財保護係

〒690-8540 松江市末次町86番地 松江市役所別館2階

TEL 0852-55-5294・5523